



針摺はりすり

◆其の六十七

針摺中央一丁目には、「針摺」の地名の由来といわれる石があります。「針摺石」と呼ばれ、「菅原道真公が自らの無実を天拝山山頂で折った帰り道、この石でおのを針になるまで研ぐ老人と会った」という伝説が残っています。道真公は大願成就のためには並大抵の努力では足りないという悟り、再び天拝山に戻ったといわれています。

これと似た伝説が滋賀県彦根市の摺針(すりはり)峠に残っています。こちらは弘法大師空海にまつわるもので、自身の修行不足を悟る、というお話です。



現在の針摺石

これらには元になったと考えられる逸話が中国にあります。当代随一の詩人の一人とされる李白が、鉄のきねを研いで針にする老人に出会い、学業にまい進するというものです。

針摺石自体は大きな石に阿弥陀三尊を表す梵字(ぼんじ)が刻まれており、道真公より後の時代に供養塔として建てられたものです。菅公伝説は後の時代に付け加えられたものですが、そこには「歴史に名を残すような人物は人並み外れた努力をしているものだ」という、人々の尊敬の念が込められているのではないのでしょうか。

「針摺」という地名には、人々の道真公に対する信仰にも似た強い思いを感じずにはいられません。

問 文化財課

